20261107_湖南ブロック研修 講演「親と子の絆」 三星園 上林三入 氏

講演要旨「親と子の絆」 要約

1. 伝統を受け継ぐことの大切さ

創業 500 年の老舗を守り続ける経験から、伝統や文化は、誰かが意識して次の世代に伝えなければ失われてしまうと強調。先人の知恵や努力、歴史を知ることの大切さを紹介。

2. 昔から受け継がれてきた三つの教え

老舗の家庭で大切にされてきた教えとして、次の三つを紹介された。

- 神仏を尊ぶ：先祖や周囲の人への感謝の心を持つ。
- 物を大切にする：物を粗末に扱わず、命や存在を大切にする心を育む。
- いけないことは注意する：子どもの将来を考え、必要なことはきちんと教える。

3. 子どもの自立と社会性を育てる

12 歳を過ぎたら、一人の人間としての自覚を持ち、挨拶や礼儀、自分で考えて行動する姿勢を身につけることが大切。体験活動を通じて、子ども自身の気づきや成長を促すことが重要。

4. 人との出会いや経験が人生をつくる

自身の学生時代を振り返り、絵を褒めてくれた先生や、高校時代に出会った先生との関わりが、その後の人生に大きな影響を与えたと紹介。勉強だけでなく、さまざまな経験や人との出会いが、子どもの可能性を広げる。

5. 家庭教育と学校教育の両立

祖母から教わった生活習慣や物を大切にする心が、自分の人間形成の土台になった。知識を身につけるだけでなく、感性を磨き、自分の得意なことを伸ばすことが重要であり、そのためには家庭教育と学校教育の両立が欠かせないと強調。

6. 挨拶と礼儀の大切さ

- 日頃から挨拶や礼儀を身につけ、相手を思いやる心を育てることが大切。

7. 子どもの自主性を尊重する

- 親が進路や人生を決めるのではなく、子どもの意思や個性を尊重し、自分で選択する力を育てる。

8. 失敗を恐れず、子どもを信じて支える

- 子どもが挑戦し、失敗したときも、親は信じて見守り、必要なときに支えることが親子の絆につながる。

9. PTA 活動を通じた人との出会い

- PTA 活動は学校を支援するだけでなく、多くの人との交流を通じて視野を広げ、自分自身も成長できる機会である。

10. 茶道の教えに学ぶ生き方

- 千利休の「利休七則」を通じて、相手への気配り、準備、思いやりなど、日常生活や子育てに通じる心構えを学ぶ。

11. 家庭と学校が協力して子どもを育てる

- 子どもの得意なことや個性を見つけ、その可能性を伸ばすために、家庭と学校が連携することが重要。

まとめ

親と子の絆は一朝一夕に築かれるものではなく、日々の生活や親から子への教え、人との出会い、さまざまな経験の積み重ねによって育まれる。

20261107_湖南ブロック研修 講演「親と子の絆」 三星園 上林三入 氏

子どもの可能性を信じ、礼儀や感謝の心、物を大切にする心を育てながら、自分らしく成長できる環境を家庭と学校が一緒につくっていくことが大切。

親子の絆を深めるためには、親が子どもを信じ、その個性や自主性を尊重することが大切。日々の生活の中で礼儀・感謝・思いやりを育み、家庭と学校が協力しながら、子どもが自分らしい人生を歩めるよう支えていくことが重要。